

行動1：こころはどこにあるのか ―心理学の歴史

日時：5月11日（火） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

1. コース全体の目標、評価方法について確認する。
2. 心と行動がこれまでどのように捉えられてきたのか、そして心を科学するためにどのような研究がなされてきたのかを理解する。

キーワード：

心身二元論、内観、心理測定、行動主義、認知科学、実験心理学、応用心理学

参考書：

- ◆ 「ヒルガードの心理学第16版」ノーレン・ホークセマ，S他著，内田一成監訳，金剛出版，2015

準備：

教科書「心理学概論第2版」の第1章第1節「心理学とは」、第2節「心理学の歴史と現代の心理学」に目を通しておく(15分)

行動2：感覚と知覚

日時：5月21日（金） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

外界を把握するために、ヒトは能動的かつ選択的に情報を収集し選択し続けている。ヒトの知覚の特性を理解し、測定方法について知る。

1. 行動と知覚との関係を概説できる。

キーワード：

閾値、精神物理学、恒常性、錯視、注意

準備：

教科書「心理学概論第2版」第3章第1節「感覚」第2節「視覚」に目を通しておく。(15分)

行動3：生得的学習と条件付け

日時：5月28日（金） 3時限

担当者：稲川 健太郎(非常勤講師)

内容：

ヒトは遺伝情報の発現と共に、外界からの情報を取り込んで学習し自らの行動を変容させている。様々な形の学習とその基礎となる仕組みについて学ぶ。

1. 行動と学習との関係を説明できる。
2. 本能行動と学習行動（適応的な学習、適応的でない学習）を説明できる。
3. レスポンデント条件付け（事象と事象との関係の学習）とオペラント条件付け（反応と結果との関係の学習）を説明できる。
4. 社会的学習（モデリング、観察学習、模倣学習）を説明できる。

キーワード：

解発刺激、生得的行動、試行錯誤型学習、古典的条件付け、オペラント条件付け、模倣、観察学習

準備：

教科書「心理学概論第2版」第4章第1節「生得的な行動と単純な学習性の行動」第2節「古典的条件づけ」第3節「オペラント条件づけ」に目を通しておく。(15分)

行動4：記憶の種類と変容

日時：6月4日（金） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

ヒトの日々の暮らしは過去の経験を情報として保存し、それを利用することで成り立っている。記憶とはなにか、そしてそれはどのように働いているのかを考える。

1. 行動と記憶との関係を概説できる。

キーワード：

再認と再生，感覚記憶，短期記憶，長期記憶，エピソード記憶，無意味綴り，記憶の変容

準備：

教科書「心理学概論第2版」第5章第1節「記憶のシステムと働き」第2節「さまざまな記憶と障害」に目を通しておく。(15分)

行動5：ヒトの発達

日時：6月11日（金） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

年齢を重ねるにつれ、ヒトの心や行動は変容していく。目に見える身体の発達とともに外界の捉え方、他者とのかかわり方など年代とともに変化する心について学ぶ。

1. こころの発達の原理を概説できる。
2. ライフサイクルの各段階におけるこころの発達と発達課題を概説できる。
3. こころの発達にかかわる遺伝的要因と環境的要因を概説できる。

キーワード：

発達段階論，認知発達，愛着，コホート，横断的研究と縦断的研究，加齢，社会・文化的影響

準備：

教科書「心理学概論第2版」第8章第1節「生涯発達の研究」第2節「生涯発達の概観」第3節「認知・思考の障害発達」に目を通しておく。(15分)

行動6：知能・概念・言語

日時：6月18日（金） 3時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

ヒトは他の動物に比べて知能が発達しているとよく言われるが、知能とは何だろうか？知能検査で測っているものはなにか。知能を多様な能力の複合体とみなすならば、それはどのようなものか考える。

1. 知能の発達と経年変化を概説できる。

キーワード：

知能検査，モジュール，スキーマ，メタ認知

準備：

教科書「心理学概論 第2版」第1章第3節「心理学の研究法」第9章第6節「パーソナリティの測定」第7節「知能」に目を通しておく。(15分)

行動7：認知と行為

日時：6月25日（金） 4時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

ヒトの身体運動がある目標に向かっていとみなせる場合、その運動を行為と呼ぶ。行為は目標、動機づけ、問題解決という階層構造として理解できる。これらの概念とその心理的要因について学ぶ。さらに行為の間違いや熟達について考える。

1. 行動と認知との関係を概説できる。

キーワード：

問題解決、ヒューリスティックス、アルゴリズム、類推、ヒューマンファクター、ヒューマンエラー

参考書：

- ◆ 「事故と安全の心理学ーリスクとヒューマンエラー」三浦利章・原田悦子編著，東京大学出版，2007

準備：

教科書「心理学概論 第2版」第5章第5節「問題解決と推論」第6節「意思決定」第6章第1節「動機づけとは」に目を通しておく。(15分)

行動8：こころを測る

日時：6月25日（金） 5時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

学習や記憶、情動は外から見るができない。行動を測定することによってはじめてその変化や異常を検出することができる。実際に使われている検査を体験し、その構造と考えるべき点を検討する。

キーワード：

評定法、妥当性、信頼性、効率性

準備：

教科書「心理学概論 第2版」第1章第3節「心理学の研究法」第9章第6節「パーソナリティの測定」第7節「知能」に目を通しておく。(15分)

行動9：医の倫理と生命倫理

日時：9月10日（金） 3時限

担当者：種田 佳紀(教養教育)

内容：

医療従事者を目指すに当たっては、医療と医学研究における倫理についての深い理解が不可欠である。本講義ではまず、倫理学の中での医の倫理と生命倫理の位置づけを概観した上で、倫理的にものを考える基本的な道具立てを紹介する。

キーワード：

メタ倫理学と規範倫理学、義務論、功利主義、徳倫理、IntegrityとFidelity

準備：

自分の人生の中で、人間に限らず、生命の尊厳を感じた瞬間を思い出しておく。また、どちらか道徳的に正しいのか、判断がつかずに悩んだ瞬間を思い出しておく。

行動10：インストラクショナル・デザイン

日時：10月8日（金） 3時限

担当者：米岡 裕美(教養教育)

内容：

相手の知識，行動，態度等に影響を与えようとする，すなわち人を教えるということ，インストラクションと呼ぶ。この時，相手の状況，思考，発達段階，及びインストラクションしたい内容の特性等に
応じた配慮と方法があり，それをデザインするのがインストラクショナル・デザインである。

1. インストラクショナル・デザインの必要性を説明できる。
2. 各技能のインストラクションのポイントを説明できる。
3. 各技能のインストラクションをデザインすることができる。

キーワード：

インストラクショナル・デザイン，運動技能，認知技能，態度

準備：

【予習】自分が誰かにインストラクションをした経験を思い出しておく。(5分)【復習】授業内課題の講評を確認し，自分の授業内課題を見直す。

行動 11：リフレクション

日時：10月13日（水） 4時限

担当者：米岡 裕美(教養教育)

内容：

体験から学ぶためには，自らの経験を意識化及び言語化し，その意味づけと行動への反映を行う“振り返り”（リフレクション）が重要となる。本講義では，リフレクションについての基礎的な方法論と専門職にとってのリフレクションの必要性を学び，臨床入門実習などの経験をもとに簡単な演習を行う。

1. リフレクションと類似概念との違いを説明できる。
2. リフレクションの必要性を説明できる。
3. リフレクションの方法を説明できる。
4. 個人のリフレクションを行うことができる。

キーワード：

振り返り，気づき，省察，反省的実践家

準備：

【予習】この日までに実施した臨床入門の振り返り（ログブックの記載内容）を見直す。(5分)【復習】授業内課題の講評を確認し，自分の課題を見直す。

行動 12：対人関係

日時：10月13日（水） 5時限

担当者：菅 理江(教養教育)

内容：

ヒト個体の生存にとって対人関係は大変重要な位置を占める。対人関係についての基本的な考え方と年齢に連れての変化，および個人への影響について学ぶ。

1. 対人関係にかかわる心理的要因を概説できる。
2. 人間関係における欲求と行動の関係を概説できる。
3. 主な対人行動（援助，攻撃等）を概説できる。

キーワード：

愛着，親子関係，共同注意，心の理論，印象形成，根本的帰属エラー

準備：

教科書「心理学概論 第2版」第8章第6節「対人関係・社会性の発達」第12章第4節「対人関係と健康」第13章第1節「社会的世界と自己」第2節「社会的認知」に目を通しておく。(15分)

行動13：集団と個人

日時：10月18日（月） 4時限

担当者：小林 清香(総セ 神経精神科)

内容：

ヒトは常に何かの集団に属しており、互いに影響を与えあっていることを学ぶ。

1. 社会の中で自己が何によって形成されるかを理解できる。
2. 同調行動，流行，服従，社会的手抜きなどの他者の存在が個人に与える影響を学ぶ。
3. リーダーシップの理論を学び，実践に活かす方法を検討することができるようになる。

キーワード：

社会，自己，同調行動，流行，服従，社会的手抜き，リーダーシップ

準備：

復習：講義で取り組んだ内容が生じている場面を実生活でも見つけられるように，学びと生活を照らし合わせて考えること。

行動14：医療における行動科学Ⅰ

日時：10月18日（月） 5時限

担当者：小林 清香(総セ 神経精神科)

内容：

医療現場における行動科学の活用について学ぶ。

1. これまでの授業で学んできたものを振り返る。
2. 医療現場の中でどのようなところに行動科学で理解されうることがあるか、どのようなところで行動科学が活かされうるかについて復習しながら学ぶ。

キーワード：

行動科学、医療活動

準備：

復習：講義で取り組んだ内容が生じている場面を実生活でも見つけられるように，学びと生活を照らし合わせて考えること。

行動15：人の行動と心理を理解するために

日時：11月10日（水） 6時限

担当者：菅 理江(教養教育) 種田 佳紀(教養教育)

内容：

ユニット全体を概観し，行動科学における倫理的問題について考える

キーワード：

社会的勢力，服従，状況が引き起こす行動

備考：

これまでの授業のプリントを持参すること

準備：

これまでの授業でわからなかったことをピックアップしておく(20分)